道神青

揮毫/中野尹亮庁長

第10号
北海道
神道青年協議会
平成9年12月20日

平成九年度

道神青研修会開催

主題「教育と神社」

―― 神道のもつ教育への役割を考える ――

挨拶する植田会長

思いがけぬ秋雷の響くなか、全道各地より参集した受講生五十三名の参加を受け、平成九年度の北海道神道青年協議会研修会が、十月二十日・二十一日の両日、日高青年神職会の担当によりウェリントンホテル静内に於いて開催されました。

午後二時より開講式が行われ、神宮並びに皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き、植田道神青会長の挨拶、神社庁研修所を代表して山田一孝理事のご挨拶をいただき、次に東京よりわざわざ御来道下さいました神道青年全国協議会篠会長の御来賓挨拶をいただき研修会の幕を上げました。

主題に「教育と神社」―神道のもつ教育への役割を考える―と題したこの研修会では、一日目に自らもPTA活動に携わり、北海道の家庭教育研究の第一人者である北海道教育大学岩見沢校教授潟沼誠二先生を講師に迎え、「見えざる教育の力―日本の教育の再建のために―」と題して、現代教育のもつ矛盾や問題点を指摘され、其の解決のために、今まさに神道のもつ公共的な心情と文化的な教養と道義的な信念が必要であると述べられました。また神戸の少年事件にも触れられ、マスコミ報道の中にも少年の犯行声明文にも父親が登場せず、現代社会の様々な現象の要因に、家庭に於ける父親の不在があるのではないかと指摘されました。

結びに河野省三著「一日本人の生涯」より「神社が郷土の中心となり、地方に於ける重要な思想的、文化的存在であるならば、これに奉仕する者やこれを本として神社神道に関する一個の見識を立てる程の者は、社会奉仕と地方教化とに奉公的努力を惜しんではならな

い」を紹介され、時代が変わろうとも我々の使命は不変であると語られるとともに、一層の社会参加を促していただきました。誠に有意義な講義でありました。

二日目には浦河町在住の中山昭三先生に「外から見た日本の学校」と題して講義をいただきました。先生は教師経験が豊富で校長退職後、国際協力事業団の日本語指導教師としてペルー・パラグアイ・アルゼンチン等の南米諸国に約八年間派遣された経験を持たれることから、日本の教育と南米の教育の違いなどを独特の調子とユーモアを交えながら紹介していただきました。

最後に道神青研修会では初めての試みであるフォーラム式討論会が行われました。受講者全員が車座になり着席し、根室神青の宮腰会長が司会となり討論が進められました。討論は今回の主題に沿って、それぞれの地域で我々神職が教育に対しどのような形で関わることができるのか、また現実にどのような実践をしているのかを中心に行われ、受講者それぞれが次々と活発な意見を出したことから、予定の時間が足りなくなるほどでありました。普段より地域に於いてPTAや社会教育に携わる機会がある世代会員が多いとはいえ、大いなる関心を呼ぶ意見が多くありました。参加各位に改めて敬意を表したいと存じます。

また、研修会や講演会などにおいてはつい聞く一方に終始する嫌があり、相互に発言する場面がなかなか無いのが実状であると思います。よって今回のフォーラムにおいては多少なりとも「発言をする」という視点も考えておりましたが、これについても些かではありますが達成されたのではないかと思います。

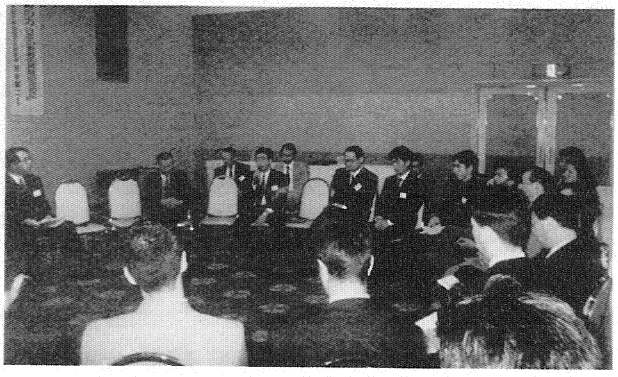
今回の開催趣旨にもありましたが、地域社会が崩壊していない時代には、神社は心の依り処として地域づくりの中心にいました。しかしながら、戦後その使命をなかなか果たす事ができていないことも現実であります。我々はいまいちど神道のもつ思想・信念を生かし、健全な地域づくりのために取り組まなければならない時期を迎えているのではないでしょうか。

それらを再認識させられた研修会でした。

終わりに、五名の会員による小さな単位会でありながら、研修会開催のためにご尽力いただいた日高青年神職会に対し、心より感謝申し上げたいと存じます。

潟沼誠二先生

中山昭三先生



盛りあがる討論

平成十年度
道神青研修会（予定）
日時　平成十年十月二十日・二十一日
場所　苫小牧ニュー王子ホテル
担当　胆振神道青年会
（詳細は後日連絡有り）

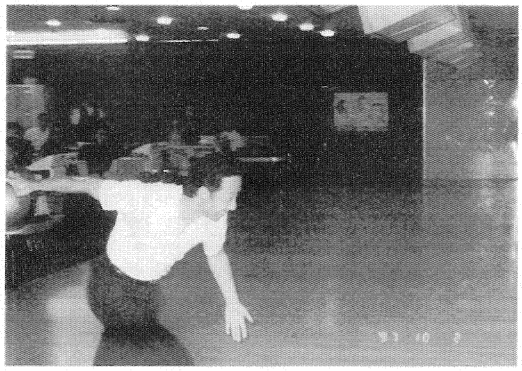
『道神青スポーツ大会』

第二回ボーリング大会

十月二日、アオキボウル（札幌）において道神青スポーツ大会、第二回ボーリング大会が開催された。

道神青スポーツ大会は、昭和五十四年九月二十八日に札幌鉄工・木工団地両球場において、第一回北海道神社庁長杯争奪親睦野球大会として行われたのが始まりで、その時は札幌、道南、後志、胆振の四チームが参加している。

この年は神青協創立三十周年に当たり、記念事業として同年七月二十六日に神宮外苑で全国十ブロック対抗親善野球大会も行われ、それをきっかけに北海道内でも野球大会が始まった。



以来、途中雨でボーリング大会に変更になった年もあったが、第三回からは北海道神宮杯も加わり、計十四回道神青最大の事業として野球大会が実施されてきた。

昨年、各単位神青会の人数の格差や、女子神職の増加等を考え、野球からボーリングに競技が変わり、八十七名という大勢の参加を得て同大会が行われたが、今年はそれに次ぐ八十六名が参加、地区を越えてチームを組み、真剣にそして賑やかに競技が行われた。

《成績》

団体の部

優勝　網走神道青年会

準優勝　宗谷青年神職会

3位　紋別神道青年会

個人の部（男子）

優勝　丸井　文樹（上川）

準優勝　井上　聰（網走）

3位　田湯　直宜（札幌）

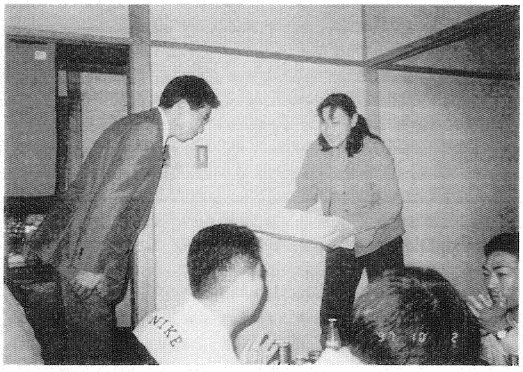
（女子）

優勝　進藤　雅美（札幌）

準優勝　最上　恭子（渡島）

3位　鎌田恵理子（上川）

年に一度一番多くの会員が集まる事業の懇親会では、各賞の表彰が行われ、鍋を囲んでの楽しい一時を過ごして交流を深めた。



平成九年度

新春講演会　開催

日時　平成十年二月二十六日（木・赤口）

受付　午後一時三十分

開講　午後二時

質疑応答、閉講　午後四時

懇親会　午後六時

場所　北海道神社庁（予定）

講師　日本大学法学部教授　百地　章氏

講演内容　「愛媛県玉串料訴訟違憲判決について」

どんど焼とダイオキシン

空知青年神職会 岩見澤神社
禰宜 植田淳一

昨今のエコロジー関連の問題で、猛毒ガス、ダイオキシンについて北海道新聞紙上に掲載されたものを機に、当社にも地元マスコミからコメントを求められる等、俄かに大きな問題として取り上げられている。最近では神社新報に配慮を求める記載が為されていたが、具体的な対応が取れないまま或いは指示の為されないまま、各社年始を迎えようとしている。

そもそもダイオキシンなるものは何なのか。

現在注目を集めているのは、その骨格に塩素が入っている塩素化ダイオキシンと称されるもので「史上最強の毒物」と云われ七十五もの異性体を持つ。主な発生源は殺虫剤・除草剤及びその製造工程で排出する産業廃棄物である。

ベトナム戦争時の枯葉剤の主剤でその後の影響は先天性異常や帰還兵の精神障害、ガン多発等一般に良く知られるところである。

やっかいな事に、これらの毒性は半永久的に失われず、土壌は勿論大気からは降雨により海川を汚染し農産物、魚介類を介して我々の身体に入りこむ。

ガンの発生率が高まる他、次代への遺伝子にも大きな傷を与える。最近のイギリス学会では、遺伝子により女子の出生率が大きく低下する事が発表されている。

生物としての存在を自ら止めざるを得ない環境になったと遺伝子が判断した結果である。

此の猛毒の物質がプラスチックやビニール等有機塩素化合物の合成樹脂製品が燃焼する課程で生成される。

では、どんど焼で焼かれる(?)物にプラスチック・ビニール製品がどれくらい使われているのか。神社に持って来る時〆縄等を入れてくる袋(ゴミ袋・スーパーの買い物袋)は、現在炭酸カルシウム入りの袋が使われており、そのほとんどは燃やしてもダイオキシンが発生しない素材となっているのでこれを神社側で取り除いても無意味である。

問題は〆飾に付いているタイやエビス・大黒・サイコロといった所謂縁起物(赤いプラスチックで出来ている)がダイオキシンを発生させる。小さな〆飾でも一個から数個、大きな物になれば十数個もが針金で括り付けられている。

岩見沢の場合、人口八万五千人、三万弱の世帯から持ち込まれる〆飾の合計は一万五千～二万程と予想され、これに取付けられている縁起物の数は十万単位に上るのではないだろうか。それをペンチ片手に取り外す作業は考えただけでゾッとするし、加えて神社で授与しているお守りを包んでいるビニール、破魔矢・熊手等に付いているプラスチック製品、或は繭玉やいくら「ダメだ」と云っても持ち込まれる供餅のカバーや人形等まで含めるとこれはもうお手上げですと云いたい程になる。

それだけ現代の生活には石油製品が深く浸透していて無くてはならない物になっているのは確かだし俄かにダイオキシンが脚光(?)を浴びたからと云ってすぐに全てを否定する動きにはなりづらい。更に日本人は多分に個々のエコロジーの意識がお世辞にも褒められたものではないと思われ(何度説明しても、どんど焼は自分で捨てる踏ん切りのつかない物の世間公認の処分場位にしか考えていない人々が多々いる――因みに今年の正月当社のどんど焼に持ち込まれた特異な物…入歯、薬、ゴルフのスコアカードの束、布団一式、位牌等々)ビニール・プラスチックの物はご遠慮下さいと社報に書き、看板を立て、声高に叫んでも効き目の程は悲観的である。

だからといって、まさかどんど焼奉仕の神職やアルバイトの学生が防塵マスクをして従事する訳にはいかない。この煙にあたれば一年無病息災に暮らせると集まる人々が多い中、信仰の枠から外れる行為は問題外である。

しかし考えてみると神道とエコロジーという命題は当然昨今起ったものではない。神代の昔、日本人は自然に神を見出し、共生し、やがて鎮守の杜を形成し、育み、守り伝えて来た。就中神職の先人達は時代時代で自然科学の先駆者であっただろうし、その精神は我々にも伝え続けられている。

であるならば寧ろ我々は積極的に環境浄化の先達として地域をリードしていかなければならない立場にある。

その意味でどんど焼は我々のフィールドで環境問題をアピール出来得る絶好の機会であるとの認識の上に立ち、ペンチ片手も厭わず奉仕すべきであろうし、その姿を参拝者に見せることが大きな教化に繋がっていくと考える。更に次年度のお守類の奉製には特段の心配りが必要だろうし、各市町村に〆飾組合があるならばダイオキシン配慮の申し入れを行う等、出来る事は数多ある筈である。

身近な事からでも、先ず動いてこそ青年神職の青年たる所以であると信ずる。

北方国土返還運動
活性化に向けて

上川神道青年会 富良野神社
禰宜　西川充彦

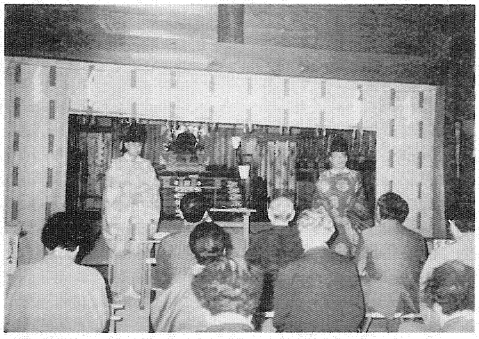
戦後悲願であった沖縄返還より二十五年が経過し、日米安保に関連する米軍基地問題・新ガイドラインに対する論争がなされ、韓国との間には竹島領有問題、大陸棚に覇権を伸ばそうとする中華人民共和国との尖閣諸島領有権問題等我国を取り巻く情勢は決して穏やかなものではありません。領土保全・国土防衛という国益の根幹に関わる諸問題を曖昧にしてきた政府の責任は重大であると言わざるを得ません。

さて、もう一つの悲願である北方国土返還についてはどうでしょうか。安政元年の日露通好条約、その後の樺太千島交換条約により国際法上も明らかに日本国領土である歯舞・色丹・国後・択捉の北方四島が旧ソ連邦に略奪されて半世紀が経過した今日も、具体的な進展はありません。政府としてもあらゆる外交努力をしているでしょうし、近年はロシア島民とのビザなし交流も盛んに行われ感情的には融和が計られてきています。しかし現実にはゴルバチョフ、エリツィンが前向きな発言をする度に外交筋がそれを否定するというロシアの二枚舌政策に翻弄されるばかりで、我々国民にはある種諦めにも似た冷めた感情があるように感じます。

こうした沈滞ムードの中、私達神職に出来ることは何でしょうか。富良野神社においては二月七日の北方領土の日に北方国土返還貫徹祈願祭を斎行、又昭和五十二年より毎朝の朝拝行事の際に「北方国土返還貫徹朝詣の集い」を開催、参列者と共に返還貫徹祈願詞を斉唱し一日も早い国土回復の願いを捧げています。各社においても様々な形で啓蒙活動を実施のことと思いますが、どんな小さな活動でも継続することによって氏子の中の希望の火を灯し続けることとなります。

明年九月末には北方四島を臨む根室の地において神社関係者大会が開催されます。千島慰霊祭を始め、返還運動活性化に向けての内容を盛り込んだ重要な大会になることと存じます。遠方ではありますが大勢の氏子と共に参加し、悲願達成への新たな出発点と致しましょう。北方国土の返還なくして日本の戦後は終わりません。返還に向けての国民大多数の声を結集してこそ自国政府はもとより相手を動かすこととなると信じます。

明治天皇御製
千萬の民のちからをあつめなば
いかなる事も成らむとぞ思ふ


朝拝　社頭講話

第三十九回北海道神社庁神社関係者大会

平成十年九月二十八・二十九日

開催地　根室市

九月二十八日　千島慰霊祭（予定）
二十九日　関係者大会
（根室市総合文化会館）

主催　北海道神社庁・北海道神社庁神社総代会

当番　北海道神社庁根室支部・釧路支部

◎北海道女子神職協議会◎ 設立十周年

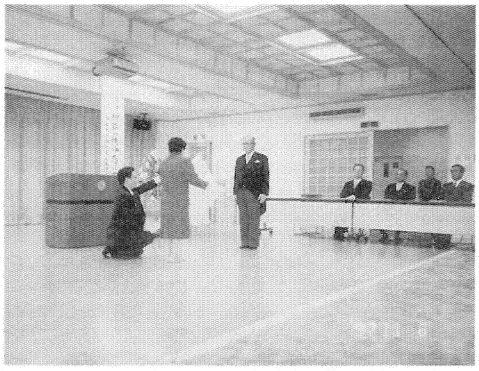
北海道女子神職協議会（会長港和子）は、昭和六十二年十一月五日に（初代会長本間米子）道内の女子神職の研鑽と親睦を目的に発足以来、諸先生・諸先輩の御指導のもと、本年で十周年を迎えました。

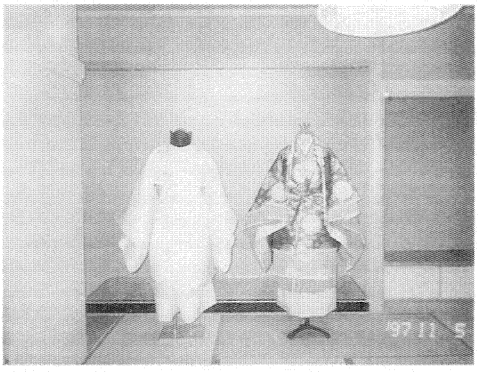
十周年の設立記念日にあたる平成九年十一月五日には、道内各地より会員が一堂に会し、午後一時より北海道神宮へ正式参拝、今日までの会の発展に感謝するとともに、今後にむけての決意を新たにしました。引き続き設立当時の役員各位を表彰、午後二時からセンチュリーロイヤルホテルに会場を移して祝賀会を開催、過ぎし十年間を偲びながら和やかに親睦を深めました。明けて六日には、北海道神社庁において記念事業の中心である「女子神職装束」の贈呈式を行い、盛会のうちに設立十周年記念事業の全てを終了しました。

◎設立十周年記念事業として◎ 女子神職装束一式を寄贈

北海道女子神職協議会では、設立十周年の記念品として、北海道神社庁に、女子神職装束一式を寄贈しました。この記念品の選定に当たっては、女子神職の養成や生涯学習を目的とした研修会の教材として活用出来るだけでなく、広く女子神職の理解につながる物を寄贈したい、との会員の声を生かし、本年度当初の総会で決議、役員会を中心におよそ半年をかけて慎重に準備を進めてきたものです。

内容は「唐衣」「単」「袴」などの正服と「白表衣」「白単」「白袴」などからなる礼服「檜扇」「浅沓」などの小物で総額六十万円相当、これで北海道神社庁には、すでに同庁が所有していた常服と合わせ、神社本庁規定による女子神職の装束の全てがそろったことになります。





贈呈式は、十一月六日神社庁新庁舎の落成を記念した研修会の終了後行われ、神社本庁副総長の工藤先生をはじめ道内の神職の皆様の見守る中、当会会長の港和子より北海道神社庁長中野尹亮様に目録を贈呈、装束のお披露目をさせて戴きました。

平成九年度 神道青年全国協議会「中央研修会」開催

主題　「人生儀礼と家庭祭祀」

期日　平成十年三月五日・六日　会場　パン・パシフィックホテル横浜

道神青の皆様の御支援に感謝して

十年前会員二十数名にて発足したわたくしども北海道女子神職協議会も、現在三十四名の会員数を数え、道内の女性有資格者も五十名に迫る勢いで増加し、道内神職数の一割を占めるようになりました。そうしたなか当会は、毎年一ないし二回の研修会を開催するほか、禊や祭祀舞の研修会に団体参加するなど、神社界における後進者としての弱点を補い、女性としての特性を生かした奉務の出来る神職をめざして活動を行ってまいりました。

しかし、求める理想と取り巻く現実には間があって、必ずしも多くの理解者を得て来たとは言い難い十年間でありました。その中にあって、北海道神道青年協議会におかれましては、前後藤会長様から引き続き現植田会長様をはじめ皆様方の御理解により、道神青通信への記事の掲載、スポーツ大会参加へのお心遣いなど強力かつ直接的な御支援を賜っておりますことに、心より厚く感謝申し上げます。

もとより不勉強なわたくしどもでは御座いますが、皆様の御協力に報いるべく努力致してまいりますので、今後とも宜しく御指導のほど御願い申し上げます。

事務担当理事　三澤吏佐子

平成9年度　新入会員紹介

（順不同）

坪山尚弘

昭和五十年十二月二十六日生
函館八幡宮　権禰宜
函館市谷地頭町二の五
渡島神道青年会
趣味…読書・釣り

※何かとお世話になる事と思いますが、宜しくお願い致します。

松崎胤彦

昭和五十一年十二月九日生
乙部八幡神社　権禰宜
爾志郡乙部町字元町二五四番地
桧山神道青年会
趣味…水彩画　水墨画

※何事も努力と初心を忘れず何事も精一杯を心懸けます。

小板欽司

昭和五十二年十一月二十三日生
砂原稲荷神社　禰宜
茅部郡砂原町字会所町三十二番地の一
渡島神道青年会
趣味…読書

※本年度より、北海道神道青年協議会に入会させて頂きました。
これからどうぞよろしくお願い致します。

進藤清昭

昭和三十七年十二月一日生
意冨比神社　禰宜
亀田郡大野町本町十六―一
渡島神道青年会

※道神青入会にあたり、より一層神明奉仕に尽くす所存でございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

岡部信彦

昭和四十六年七月十二日生
帯廣神社　権禰宜
帯廣市東三条南二丁目一番地
十勝青年神職会

※神職として奉仕させて頂き一年余。未だ毎日が勉強です。皆様の御教導宜しく御願い申し上げます。

加藤剛

昭和四十六年三月十八日生
手稲神社　権禰宜
札幌市手稲区手稲本町二条三丁目
札幌支部青年神職文月会
趣味…アイスホッケー

※北海道神道青年協議会々員の一人として、又私個人神職として神明に御奉仕致し、意を以て日々精進を重ね、決意も新たに御神徳の発揚に努めて行きたく思っております。今後、皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく、伏して御願い申し上げます。

丸井直人

昭和四十五年三月十二日生
鷹栖神社　権禰宜
旭川市東旭川北三条五丁目三の三十七
上川神道青年会
趣味…音楽鑑賞、古書店巡り

※一般社会からの新参者でありますが、その任の重さを痛感する日々を過ごしております。ご指導仰ぎたく存じております。

中島徹

昭和五十一年十月十六日生
札幌三吉神社　出仕
札幌市中央区南一条西八丁目一七
札幌支部青年神職文月会
趣味…珠算二級、バスケット（球技なら何でも）

※出身地は雄武町です。抱負としましては、何事にも一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

手塚裕建

昭和四十七年一月二十四日生
由仁神社　宮司
夕張郡由仁町木町三三〇番地
空知神道青年会
趣味…音楽鑑賞

※半人前の神職ですが一所懸命、お社をお守りし、私自身も一日も早く一人前と成る様、頑張りたいと思います。

前田穣

昭和四十九年五月二十五日生
北海道神宮　出仕
札幌市中央区宮の森一二三九
札幌支部青年神職文月会
趣味…スキューバダイビング

※宜しくお願い致します。

河井美佳

昭和四十三年二月十日生
佐呂間神社　権禰宜
常呂郡佐呂間町宮前九十五
紋別神道青年会
趣味…音楽鑑賞・フラメンコ

※研修・行事等には、極力参加するよう努めて参りたいと思っております。

太田玲子

昭和三十三年二月二十三日
永山神社　出仕
旭川市永山三条十七丁目
上川神道青年会
趣味…声楽

※広い視野で日本を見つめ直し、その良き姿を世界に広める為、今後は神職としても頑張りたいと思います。

ズームアップ地方発信

十勝青年神職会 研修旅行報告

十勝青年神職会は、会員の親睦と道内神職との交流を図る為に、年一回の研修旅行を実施しており今年は空知支部に参りました。

去る七月十四、十五日の一泊二日にて六名の会員が参加し、乗用車二台に分乗して一路岩見澤神社に向けて帯広を出発。三時過ぎに到着するも、気温三十三度とビートの産地とは違い、流石米所と感心する暑さの中で、冷たい麦茶の心遣いに感謝して一同正式参拝。

岩見澤神社参拝

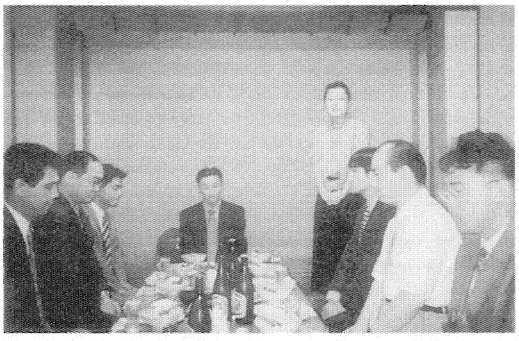
十勝気鋭？（色々な意味が有ります）の神職に見られる事も臆さず御奉仕の職員様に拍手。植田栄親宮司の講話を頂いて、各自先人の労苦は、心に留め置く事多くあるようで、境内施設を周りながらのお話には、熱心にメモを取る会員もいる程でした。

午後六時より、空知青神会の皆様と懇親会の開催。十勝が誇る木花開耶姫と名高い三澤吏佐子会長の美しさ？か、松尾大社か大神神社かは知らねども、有難さに涙こぼるる者も居り、乾杯と共に酒神の御加護宜しく、十五分程で互いの親交は頂点に達したのでした。

扨、仲良く翌日の御来光を頂いた我々を待っていたのは、彼の夕張神社宮司手塚整輝氏でした。

十五日早旦斎場を便備し、我々を出迎えて下さりました。各自参拝し、島田陽子婚礼の裏話等を拝聴した後、お土産のメロンを頂き、石炭の歴史村へ案内下さり、これ又宮司様の口添えで無料（ここがミソです。本当にお世話になりました）で案内付きにて見学し、幸せの黄色いハンカチのロケ地等を廻って一路十勝への帰路についたのでした。

空知の方々には、大型台風がやって来たようなものではないかと想像しておりますが、実に有意義な旅行となりましたのは、大御心を頂きて睦び和らぐ空知の皆様方の心意気があったからで、今回の御懇意に改めて感謝申し上げますと共に、これからも道内各支部、単位神青の皆様の御協力の下、十勝青神会の活動を盛り立てていきたいと思っておりますので、その節は、宜しくお願い致します。



空知青神との交流会

（十勝青神会副会長　岩崎寿澄）

編集後記

今年も残すところ、あとわずかとなりましたが、皆様方には御社務益々ご繁忙の事と存じます。

この神青協通信第十号がお手元に届くころには、新しい年を迎える諸準備で大変な毎日ではないでしょうか。

早いうちから通信の編集の担当を仰せつかっていながら、何かと理由をつけては取りかからずに居たわけで、このように年末ぎりぎりの発行と成ってしまいました事を改めてお詫び申し上げます。

また、短い時間のなかで快く原稿をお寄せ戴きました皆様方には心より厚く御礼申し上げます。

さて、明年九月末には、神社関係者大会が根室にて開催されることと成りました。北方領土の返還に関する諸問題は先の橋本首相とエリツィン大統領との首脳会談の結果をうけて、今大きな変革の時を迎えようとしております。この問題が、ただ日本とロシアの政治的なかけひきの具とされることなく、旧島民の方々をはじめ多くの国民の五十数年におよぶ返還の叫びに答えるものとなるよう願ってやみません。

多くの皆様方に根室においで戴き、予定しております千島慰霊祭にご参列戴きたく、紙面をお借りしてお願い申し上げます。

（宮腰）